



高次脳機能障害の方の復職支援に 向けた取り組みからわかる 札幌市の現状と今後の展望

○ 角井 由佳

(NPO法人クロスジョブ クロスジョブ札幌 就労支援員)

伊藤 真由美(NPO法人クロスジョブ クロスジョブ札幌)

濱田 和秀(NPO法人クロスジョブ)

はじめに

- 高次脳機能障害(以下「高次脳」という)の方の復職支援は働き方改革の柱であると言える。
- 2017年より復職支援を目的とした就労系サービスの利用が条件下で可能となったが、2019年の時点では札幌市は依然復職支援目的での利用は困難な状況であった。
- 昨年、札幌市での復職支援実現に向けて取り組み、高次脳の方の復職に向けた支援のニーズの高さを多方面から証明でき、
2020年2月より札幌市でも条件下での利用が可能となった。
- 今回、取り組み報告と、考えられる現状の課題を考察し、復職拡大に向けて、今後の展望について報告する。

復職実現に向けた取り組み

1. 医療機関とのアンケート調査の実施

【協力】 北海道ソーシャルワーカー協会（以下MSW協会）

【対象】 MSW協会に所属しているMSW（北海道内）

【内容】 復職を目指す高次脳患者の事例をもとに回答

【質問内容】

- ▷ 高次脳患者の対応経験の有無
- ▷ 事例の退院後の経過（復職or辞職or復職後解雇）
- ▷ 復職支援に向け必要だと思うサービス ……計16問（現在統計作成中）



一部回答内容

▶高次脳患者の支援で「困った経験がある」と回答したMSWの方が多い

▶復職に向け必要だと思う支援については、

就労移行支援事業所での支援が最も多く、

次に**B型事業所**、次に**企業の疾患理解**であった

理由… 短い入院期間では『病識の獲得が不十分』であるため

医療機関では企業への訪問や、高頻度の企業調整の機会を作ることが困難であるため という意見が多くを占めていた

復職実現に向けた取り組み

2. リワーク支援の実態調査



【これまでの回答】 復職の見込みがある場合には、
リワーク支援などの医療機関の復職支援をご利用ください

実施目的 ▶ リワーク支援の実際の支援内容の把握
高次脳の方の受け入れ状況の把握

調査内容 ▶ 札幌市内でリワーク支援を実施している事業所への訪問
見学・支援者との情報共有

【リワーク支援を行っている職員の方のご意見】

- ▶ 集団プログラムへの参加の難しさ(本人の孤独感を感じる)
- ▶ 企業への訪問や調整は実施しておらず、時間的余裕もない
- ▶ 二次的障害(心理的落ち込み)へのプログラムはあっても病識獲得にむけての個別的なプログラム立案の乏しさ
- ▶ 高次脳の方の利用相談が少ない(あっても5年に2~3名程度)

復職実現に向けた取り組み

3. 多方面からのアプローチ

開所当時から連携している各機関に問題提起



他機関も賛同してくれ、同じ意識のもと、
各関係機関からも市へのアプローチを実施



- ▶ **就労継続支援事業所(高次脳支援特化の事業所)**
 - ・・・同じように休職期間中の高次脳事例を通して改めて市へ相談
 - ・・・複数事業所から市議会議員へ現状と支援の必要性を報告
- ▶ **家族会(脳損傷友の会)** ・・・ 対象となる事例の掘り起こし
- ▶ **就業・生活支援センター**
 - ・・・ 市への問題提起と必要性について声掛けを実施



結果

札幌

市役所



Q2 休職中に係る就労移行支援、就労継続支援A・B型の利用

休職中に就労移行支援や就労継続支援A・B型を利用することはできますか。

A 復職支援については、原則、就労支援機関（例：障害者職業センター、ハローワーク等）や医療機関等の復職支援（例：リワーク支援）を利用することとされております。

ただし、就労支援機関や医療機関等の復職支援における対象者要件に該当しない等の理由により、復職支援を利用できない方については、次のいずれも満たす場合、個別に就労移行支援等の利用を認めております。

- ① 原則、事業所の調整によって企業及び主治医から提出された書面により、企業及び主治医が、事業所の提供する復職支援を受けることにより復職することが適当と判断していることが確認できること
 - ② 就労移行支援等事業所の作成する、事業所の提供する復職支援の具体的な内容等が記載された書面により、当該復職支援を実施することで、より効果的かつ確実に復職につなげることが可能であると判断できること
- また、障がいの状態が重く、復職することが困難な場合や今後復職しないことが明白な場合についても、個別に就労移行支援等の利用を認めております。

札幌市保健福祉局『就労系サービスに関する手引き(Q&A集)』(2020年2月)より

他府県と同様に就労系サービス利用が可能となった!!



考察～取り組みからわかる札幌市の現状の課題～ (1) 企業

復職モデルの少なさ

- 受傷・発症後に復職を果たした事例が少ない現状にある
- そのため、対応方法や雇用管理方法、障害への知識について手探り状態であることが考えられる
- 高次脳機能障害という名前自体は認知傾向にあるが、依然【わかりにくい障害】【難しい障害】というイメージを持たれやすい
- 復職に向けて抵抗感や不安感から躊躇されやすい

考察～取り組みからわかる札幌市の現状の課題～ (2) 医療機関

地域サービスの認知不足

- 高次脳患者を対応する職員（医師、看護師、MSW、リハスタッフ）まで、地域で使えるサービス機関の存在周知に至っていない
- 入院期間が短縮していく中で、退院後も途切れず地域サービスを利用する必要性は例年高くなっていることが考えられる

社会参加の可否についての判断の困難さ

- 受傷・発症から復職までの道筋が非常に重要となる高次脳の方にとって、医療機関は重要な役割を担っている
- しかし、症状や重症度、改善まで個別性に富んでいる高次脳の方にとって、どこまで社会参加が可能となるのか、はっきりとした基準がない
- 限られた入院期間中に、退院後の方向性を定めにくいことが考えられ、社会参加のゴール設定に結びつきにくい現状にあるのではないかと

考察～取り組みからわかる札幌市の現状の課題～

(3) 地域

高次脳機能障害者の受け入れ体制の少なさ

- 札幌市にある就労移行支援事業所の中で、高次脳の方を受け入れられる事業所は、年々拡大傾向にはあるが、発達障害、精神障害の方と比べると、依然少ない現状にある

参考文献: 札幌障がい者就業・生活支援センターたすく
『2019年度札幌圏就労移行支援事業所利用可能障がい種別の状況』より

高次脳の障害理解の乏しさ

- 高次脳の復職を目指すうえでは、受傷・発症後の自分と向き合い、自己理解を深める時間が重要となる
- 自己理解には時間を要し、個別的な関わり、他者との交流が必要
⇒ 期限が限られている障害者職業センターや個別性に富んだプログラムの立案が比較的難しいリワーク支援には限界があることが今回の取り組みで考えられた
- 就労移行支援事業所で利用できる2年という期限の中で自己理解を深める関わりが求められる



おわりに～今後の展望～

- 今回、地域の皆様の協力があり、札幌市でも復職支援目的での就労移行支援事業所の利用が条件下で可能となった。
- 今回の取り組みから、各側面から考えられる課題として、すべての項目で『周知活動の必要性』が共通点として考えられた。
- 就労移行支援事業所の活動内容についてのほか、企業や地域にて支援を行っている方々を対象に、地域の中で「高次脳の方の就労」に着目し、高次脳について考え・話し合える場を作り、理解を深めていく取り組みが必要と考える。
- そのためにも、高次脳の方の受傷・発症から復職、復職後働き続けるまでの道筋を支援し、事例を通して多職種へ「障害があっても戦力として働ける」ことを示していくことが私たち就労支援に携わる者が行うべき役割であると考えます。

法人HP QRコード→

